

## 朝鮮半島平和の時代と東アジアの変貌

徐 勝

(又石大学校東アジア平和研究所 所長)

徐勝氏は1945年に在日朝鮮人2世として京都に生まれた。東京教育大学を卒業後、ソウル大学校に留学していた最中、韓国の陸軍保安司令部に不当に拘束、逮捕され、国家保安法違反の有罪判決をうけて19年間の獄中生活を余儀なくされる。徐勝氏は獄中での非転向を貫き、1990年に釈放、その後はアメリカのカリフォルニア大学、そして1998年からは立命館大学の法学部の教授として、また、2006年からは立命館大学コリア研究センターのセンター長として、東アジアの国家暴力、そして人権侵害の真相究明とその回復の問題について、研究と実践の活動を積み重ねてきた。現在は韓国・又石大学校東アジア平和研究所長の職にある。

この度、明治学院大学国際平和研究所と又石大学校東アジア平和研究所は学術研究交流のための協定を交わすことになり、これを記念して2019年3月30日に国際平和研究所主催により講演会「朝鮮半島平和の時代と東アジアの変貌」を開催した。以下は徐勝所長の講演と質疑応答の記録である。なお、紙幅の都合上、省略せざるをえなかったが、講演会では翻訳家で朝鮮現代史研究者の米津篤八氏がディスカッサントとして講演へのコメントと論点提示をしてくださった。

ご紹介いただきました徐勝と申します。この席から見てみますと、韓国社会と日本社会とは、よく似た風景が見えるんですが、若い方とお年寄りに両極化されて、中間層があまりおられないという構造です。いずれにしても若い人も来ていただいたことは、大変良いことだと思っています。もちろん私は韓国の大学で平和学の講義もしていますが、なかなかこういう席に若者たちが来ません。今日は、鄭榮桓先生の授業を聞いている諸君じゃないかと思います。私は、立命館大学法学部で教えていたんです。もともと法学とは関係ありません。東京教育大学で経済学の勉強をして、ソウル大学大学院では、社会学の勉強をしました。立命館の法学部の教授に採用されたのは、私が韓国の

監獄で19年間いたから、人権のことはわかっているだろうということらしいです。

1971年、私はソウル大学大学院に在学しているときに逮捕されて監獄に入ったために、修士論文も出せなかった。監獄から出た後に、修士論文を出しました。私は修士学位だけあって、博士の学位はないので、教授会で論議になったわけです。しょうがないから『獄中19年』という岩波新書を博士論文と見なそうということになったのです。人事委員会から教授会に助教授という提案で審議したんですが、教授会で反対意見が出た。僕は19年監獄にいて、出所したときは年が既に45歳だった。アメリカのカリフォルニア大学のバークレーだとかにいるうちに年をとって、立命館大学に就

職するころは53歳だった。助教授で任命したいという人事委員会の提案に対して教授会で徐勝を助教授にしたら、教授昇進審査が7年後で、彼が65歳の定年退職まで5年しか残らない。万一教授になったとしても何年しかないということになって、じゃあ初めから教授という異例の人事でした。

立命館大学を定年退職してから、特任教授があり、あと非常勤講師まで粘れば75歳まで大学で仕事ができますが、2018年4月から韓国全羅北道全州の又石大学校に碩座教授として招かれて、平和学を教えています。10月16日に東アジア平和研究所を開設しましたが、まだちゃんとした研究所とは言えない状態です。今年、2019年の5月9日に、「朝鮮半島平和の時代と東アジアの変貌」という国際シンポジウムを予定しています。

今日は「朝鮮半島平和の時代と東アジアの変貌」をテーマにお話しようと思います。

### 朝鮮戦争の終結への願い

朝鮮半島は、1945年に日本の植民地から解放されて、すぐに南北に分断されました。分断時代において、朝鮮ではみんな統一を熱望しました。在日朝鮮人は、祖国の統一が一生最大の願いでした。ところが最近になって、韓国の若者たちは随分変わりました。統一とは関係ないという人々や若者が随分増えました。大学を卒業して一流企業に就職して、マイカーを買って、いいマンションに住んでということに関心がいっています。道を歩いても、電車に乗っても、みんな携帯ばかりのぞいて、横は一切見ない。視野狭窄症の社会になって、統一についても、意識が薄れてきていると思います。

朝鮮半島の分断と朝鮮戦争、これは日韓の若い人にはよくわからないと思います。その当時戦争で死んだ人々が、以前は250万人ないしは300万人くらいと言われていたんですが、実はそれよりは

るかに多いと言えます。私が中国の瀋陽に行ってそれを確認してきました。

第二次世界大戦あるいは、1931年の満州事変以来、15年戦争と言われる戦争の中で、日本人は何人くらい死んだか、わかりますか。一般に310万人と言われていますが、約3分の2が軍人で、3分の1は民間人だと言われています。

日本は1941年から45年まで、足かけ4年間米国をはじめとした国々と戦争をした。どんな範囲で戦争をしたのかというと、真珠湾攻撃をしたから、東のほうは真珠湾から、北は、アラスカ近くのアリューシャン列島、南は、オーストラリア北部のダーウィンという町あたりまで上陸した。西は、インドとミャンマーの国境地帯のインパールのそのあたりまで。だからとてつもない広い地域です。地球の表面の何分の1になりますか。ほぼ太平洋がすっぽり入るぐらいの広い地域で戦争をやったんです。日本人の死者を約300万人とみて、この日本が行ったとてつもない戦争より多くの方が朝鮮戦争で死んだのです。

朝鮮戦争では、日本の本土の面積ぐらいしかない朝鮮半島で、主に38度線以北で400万人くらい死んだのだから、恐ろしい戦争だった。そのうち、中国人民志願軍が約半分、200万人ほど死んでいます。想像を絶する戦争だった。1953年7月に休戦になりました。アメリカ、中国と朝鮮の負担が大きくなりすぎて、休戦協定が結ばれて、70年近く、続いています。インドとパキスタンとの間のカシミール紛争もまだ休戦状態が続いていますが、朝鮮半島は世界で最も集中的に武力が配置されて、要塞化された地帯によって分断されている。

その朝鮮戦争を、完全に終結させようという声が高まってきました。70年間も敵対して大変なコストがかかってきただけではなくて、日本でも朝鮮半島の安全保障の危機を不安に思う声があります。こうした危機のなかで生きるのに韓国は世界で1人当たりのアルコール消費量が2位だとい

ます。精神疾患の患者の人口比でいうと、世界の2位。自殺者もそうです。非常に大きな社会的ストレスがあると言います。

そのストレスの原因の一つは、分断状態から来る問題です。韓国の若者は軍隊に行かなければならず、学校でも軍事教練をします。軍人が韓国社会を支配してきたと、批判を受けました。大変な経済的な資源が軍に吸い取られている。事故も起こる。大きなストレスがあると言えます。だから停戦状態を完全に終結して、朝鮮半島での戦争を終結させたいと、多くの人が願ってきました。

### 文在寅大統領について

韓国の文在寅政権は、日本では評判がよくないみたいですが、私の知っている文大統領は真正直な人です。政治家としては真正直過ぎるくらいです。政治家はトランプみたいに、うそをつきます。うそが過ぎると、安倍さんみたいに問題になりますが、政治家はうそもついたり、ごまかしたりするのが普通だけど、文在寅大統領はそれができない性格で、全く清廉潔白な人です。

彼は盧武鉉大統領の秘書室長をやっていたときに一切の請託を受け付けなかった。友達とか家族とか、故郷から来た人々に会うといろんな頼み事をするから、秘書にそのような人々との一切の面会を謝絶させたといいます。私はその話を聞いて、非常に驚きました。政治家の中にも清廉潔白な人もいますが、文在寅大統領のような人は珍しい。

文大統領は、盧武鉉政府の大統領秘書室長在任中に、いろんな人々から政治をやれと勧められましたが、それを断って、秘書室長をやめて、政治とは手を切るといって、ヒマラヤヘトレッキングに行ったことがありました。はじめ釜山の同じ法律事務所で弁護士だった時代から、親密な友人である盧武鉉大統領から秘書室長を頼まれて、仕方なく引き受けたのですが、2年という当初からの

約束通りに辞任した。2004年、当時保守野党のハンナラ党は、大統領が与党のウリ党をに対する支持発言をしたと言って、選挙法違反、側近の不正に対する責任、経済政策の失敗を理由に、国会で盧武鉉大統領の弾劾訴追を可決した。

弾劾決議に対して、行政裁判を提起するからと、文在寅氏をヒマラヤから呼び返しました。その訴訟には勝ちましたが、文在寅氏は大統領選に絶対出ないと言っていたのに無理やり大統領候補にさせられて、1回目（2017年）は落選しました。それで、『運命 文在寅自伝』（矢野百合子訳、岩波書店、2018年）という本を出した。大嫌いな政治をやるのが自分の運命なんだと諦めて、2回目に本気で大統領選挙に出馬して当選しました。

彼はあまり大統領向きじゃない。政治的な駆け引きがあまりできない人だから。最近、日本だけでなく、韓国でも様々な批判を受けています。しかし私は、うそとフェイクニュースと詐欺が横行している時代に、文在寅大統領のような人物が大統領をやることは必要だと思っています。

文在寅大統領のことを日本で親北朝鮮の共産主義者だと言っているのを聞いて非常に驚きました。彼はカトリック信者です。日本では彼のことを、あまりにも知らない。ただ彼は、南北の対立と、今にも戦争が起こりそうな状況を何とかしたいと思ってきました。だから昨年も「自分は命をかけて朝鮮半島での戦争を阻止する」と言いました。本当に命をかけるでしょう。学生のころに学生運動で留置場に入れられて、留置場の中で司法試験合格の通知を受けました。留置場にいたから復学できずに、軍隊に強制的に入隊させられました。入隊させられた軍は普通の歩兵ではなく、特殊戦闘部隊で、アメリカでグリーン・ベレーと言いますが、ジャングルでゲリラと戦争する部隊です。その当時はもうベトナム戦争の終わりの局面だから、ベトナムに派兵されて、ジャングルで戦闘することはなかったが、訓練は恐ろしいもの

でした。彼は司法試験を在学生のときに合格しましたから、生っ白い秀才かなと思うかも知りませんが在学中には「慶熙大学のアラン・ドロン」というあだ名があったぐらい男前で、運動神経もとてもすばらしい。大統領選挙の前に一度テレビ番組で、上着を脱いで見せましたが、筋肉もりもりですから。特殊戦闘部隊でめちゃくちゃしごかれて、その後もずっと運動をやっていますから。

### 板門店宣言の画期性

2018年、平昌オリンピックを契機にして、信じられないような南北の和解があった。それは金正恩委員長の新年辞に始まり、それ以来、南北の首脳会談が、2018年3回行われた。2018年4月27日に行われた板門店宣言があります。間もなく一周年が来ますが、「両首脳は、朝鮮半島にもはや戦争はなく、新たな平和の時代が開かれた」と、「平和の時代」を謳っています。また、「冷戦の産物である長い分断と対決を一日も早く終わらせ、民族的和解と平和繁栄の新たな時代を果敢に切り開き、南北関係をより積極的に改善し発展」させると言っています。

それから2018年9月には平壤で両首脳が会って、平壤共同宣言を出しました。「軍事的な敵対関係終息を、朝鮮半島の全地域での実質的な戦争の危険の除去と根本的な敵対関係の解消につなげていく」と、「板門店宣言軍事分野履行合意書」をこのときにつくりました。

その内容を見ると、まず板門店に関する合意です。いま、共同警備区域になって米軍がおり、中間に線が引いてあって往来ができないのですが、この前、第2回目の南北首脳会談で金正恩委員長と文在寅大統領が会って、その線を越えて、行ったり来たりしました。首脳が板門店の境界線を越えたのは歴史的には初めてのことです。だが、そ

こが完全に自由地域になる。観光客がその線をいくらかでも越えていいことになりました。

それから非武装地帯（DMZ、38度線）、今は軍事境界線です。ここにある南北の軍事監視所20カ所を破壊、廃止すると、約束しました。以前なら、全く考えられなかったことです。ゆくゆくは、非武装地帯での往来も自由にしようと言っています。非武装地帯に沿って、双方の巨大スピーカーから相手地域に向けて大声で宣伝をやっていましたが、それもなくなる。海上にも南北の境界線があります。これは厳密に言うと境界線ではなく、韓国の漁船がそこから北上しないように米軍が一方的に設定した北方限界線ですが、こういうものが紛争の原因になるので、それを共同管理地域にして、自由に魚をとれるようにしようという件もあります。画期的なことです。38度線一帯の上空を飛行禁止区域にして、紛争の原因をなくそうという約束もありました。

両首脳は、この平和実現に対して強い意思を持って、首脳間で合意をつくったと言えます。この板門店宣言では「平和の時代」と言っています。これまで、朝鮮人は統一を随分強調してきました。統一が実現すれば死んでも、心残りが無いというぐらい、統一を熱望しましたが、私は、いつか統一時代が来なければならない、分断時代がなくなっこそ、朝鮮半島における人間らしい生活が実現され、平和な時代が来ると考えてきました。

### 「朝鮮半島平和の時代」のために必要なこと

これまで朝鮮半島が分断されてから74年の歴史を韓国の有名な歴史学者、姜萬吉先生が「分断時代」と名づけました。今も、まだ分断時代が続いています。分断時代がいかに大きな犠牲を強要してきたか、一々述べませんが、私はこれから朝鮮半島で「平和の時代」をつくっていくことが歴史的・民族的使命であると考えます。「平和の時代」

というのは一般名詞のように思われるかも知りませんが、私は朝鮮現代史における新しい歴史概念として初めてここで話します。私は韓国の『京郷新聞』にコラムを連載していますが、「朝鮮半島平和の時代」という原稿を今朝書き終えて送ったばかりです。「平和の時代」とは、南北の対立や敵対がない状態ですが、それ以上に大切なことは、統一の時代に向かう準備をする時代だと言えます。すなわち、この分断状態、朝鮮戦争の休戦状態を終結させるためには、朝鮮戦争参戦の当事者である朝鮮とアメリカ、それから中国、韓国（停戦協定に署名はしていませんが、当事者です）の三者ないし四者が終戦宣言を行い、戦争を再びしないための平和協定あるいは平和条約に署名して、発効させる必要があります。もちろん国会の批准も必要ですが、国連での朝鮮半島平和決議、終戦決議も必要だろうと思います。

日本は朝鮮戦争に表面的には、かかわっていませんが、関係者としてロシアや日本のような国も、朝鮮半島平和協定に対する保証人として保障協定を結んでもいいだろうと思います。日本の平和運動団体、ピースデポなんかでは、東北アジア非核平和地帯宣言を行い、条約も結ぼうと言っています。しかし、朝鮮半島南北と日本を含めて核のない、軍事的対立もない平和地帯構想も必要だろうと思っています。

平和とは何かについて様々な意見があります。安倍総理は「積極的平和主義」という言葉を使います。圧倒的な武力を持ってこそ、初めて平和を保障できるという考えです。アメリカや韓国の平和学会の主流も、国際政治学の専門家たちで占められています。パワーポリティクス、つまり「力の政治」を背景にして、平和は軍事力によって保障されるという考え方です。私はその考えに同意しません。ユネスコ宣言が「人の心の中に平和のとりでを築け」と謳っているように、平和は信頼だと思います。武器がいくらあっても、戦争する

という人の動機がないと武器の使用はなされない。逆に相手に戦わない意思があれば、自分は非武装でも戦争が起こらないこともあり得る。

2019年3月に、ハノイでアメリカのトランプ大統領と金正恩委員長との会談がありましたが、物別れになった。人々は非常に失望しました。衝撃を受けました。アメリカは、一挙に核ミサイル問題を解決しようとしてしました。それも、相互的にやるより、北朝鮮が一方的に武装解除すればアメリカは経済的支援をするといった話なんです。だから北朝鮮は、とても受け入れられない。段階的に行動対行動で、一つずつ問題解決しながら、その間にお互いの信頼関係をつくるのが大切だと思います。だから「朝鮮半島平和の時代」というのは、朝鮮とアメリカだけではなくて、南北間でお互いに信頼関係を築く時間が必要だと思います。その時間は、戦争や軍事的敵対のない状態が保障される必要があります。そこで大いに交流して、疎通して、信頼関係をつくる必要がある。私は、時間が必要だと思います。だから朝鮮戦争の対立状態から一足飛びに統一の時代に行くのではなく、かなり長期であって漸進的な変化をしていく「平和の時代」を設定する必要があるでしょう。

韓国の若者たちは、分断状況で生きていく方途を考えるのが難しく、統一意識が昔のようではない。私はこの人々が実際に北朝鮮の人々との交流を体験して、その中でお互いの信頼関係をつくって生きていく、新しい道を見つけていく必要があると思います。老人たちは、統一を早く実現しようとおっしゃる方も多い。私も同じ考え方でした。もちろん、できれば早くしたほうがいい。だが、その過程はゆっくりであってもいい。要するに分断状態から来るさまざまな苦痛や危険、不安がなくて自由に往来しながら、移住もできる状態になれば、政治的にすぐに統一国家を宣言しなくてもいいんじゃないかと思います。だからこれからは、「朝鮮半島平和の時代」がとても重要な意味を持つ

ています。私はこれから、こういう主張をしていこうと思っています。

1945年に朝鮮半島が分断されて以来、分断の時代から南北の和解・協力・平和の時代、そして統一の時代へと、段階を経て歴史が進んでいくのじゃないかと考えています。

## 「アジア」の近代史とアメリカ

朝鮮戦争、朝鮮半島分断の問題の原因は何か、その根底は何かについて、よく言われているのは、分断と同時に、あるいは分断以前から、社会主義圏と自由経済圏との対立があって、そのイデオロギー的な対立のために南北分断が維持されてきたと、一般的に説明がなされてきました。

朝鮮の近代の起源にしても分断にしても、その根底には近代以来の東アジアの歴史があるとします。皆さんが東アジアだと認識している地域に、昔から「東アジア」あるいは「アジア」という名称があったわけではない。ヨーロッパ人がこの地域で経済的な利益を得るために、さまざまな資源を略奪したり、交易するためにやって来て、戦争・侵略も行い、植民地支配も行い「アジア人」、「東アジア」という名称が定着したのです。ヨーロッパ人が我々をアジアと規定したのです。

私が生まれたときは何の意識もない赤子だった。大きくなりながら、自分がだんだん朝鮮人だとわかり始めた。勉強してわかったというより周りの子供たちが「おまえは朝鮮人や、朝鮮、朝鮮」と言うから、私は朝鮮人だと思うことになるんですが、それと同じく、ここに住んでいる人々は「アジア」という言葉を、もともと住んでいた人々からではなくて、この地域を侵略し、支配した人間から聞き、教えられてきたのです。

明治期に東京美術学校の校長をやった岡倉天心は「アジアは一つ」とか言いましたが、アジアは一つであるはずがない、ヨーロッパ人のまなざし

から、自分以外のアジアを一括りにした話です。「東アジア」が生まれたのは、日本が朝鮮や中国と同じく、圧倒的な西洋帝国主義にどう対応するのか大きな危機に直面したときです。その対応として、日本は文明開化、欧化主義という路線を選択し、徹底してヨーロッパを模倣して、ヨーロッパの支配を免れようと考えました。それが当時、帝国主義への道を歩む始発点となりました。日本では明治150年にあたって、明治維新を偉大な歴史だと自画自賛しているみたいですが、私は必ずしもそう思わない。最近も日本人は欧米が大好きです。世論調査によれば、約80%がアメリカを好きと言っているらしい。これは、世界でも非常に珍しい現象です。

世論調査すると、韓国でもアメリカ大好きで、トランプ大統領のほうが文在寅大統領よりも好きな人も結構います。だが韓国では、アメリカが好きな人は40%ぐらい。世界的に見れば、イスラム国家では0%で、ヨーロッパは20%になるかならないかです。日本は、例外的にアメリカ大好きなんです。

アメリカも日本大好きですが、アメリカはこれまで対外戦争をした後、占領統治を10何カ所かでやってきました。イタリア、ドイツ、米西戦争の後にキューバ、フィリピンでも占領統治しましたが、歴代のアメリカの占領統治で、日本の占領統治が最も成功だったと言われています。イラクでの占領統治は、失敗だった。占領統治したところでは、アメリカは厳しく批判されてきましたし、アメリカは当地に大きな被害を残している。場合によっては、武装抵抗も受けたりしました。ところが日本ではアメリカ万々歳です。アメリカのマサチューセッツ工科大学（MIT）のジョン・ダワー教授は、日本戦後の占領時期の研究者として世界第一と言ってもいい研究者ですが、イラク戦争中にアメリカ国務省はジョン・ダワーに諮問を求めました。「先生は米日本占領統治の専門家だ

が、イラクの占領統治をうまくやるためにどうすればいいですか？」と。そうすると、ジョン・ダワー先生は「とんでもない。アメリカがイラクでやっていることを、アメリカの戦後日本での占領政策と比較することなんてとてもできない」と断られたそうです。アメリカのイラク占領統治は、日本が満州を占領して統治したのと同じようなものだ、と言ったそうです。武力や謀略で侵略し、暴力で統治した歴史なんだから、比較にならない。日本はアメリカ占領統治史で、唯一成功した例と言ってもいいかわかりません。

文明開化と明治以来の日本の歩みに通底するのは、アジア蔑視、東アジア侵略・支配、アジアの諸国との敵対です。日本が東アジアでやってきたことに対して真実を見つめて、過去の清算を行い、間違っていた部分を正していくことがお互いのためだと思います。

過去清算、歴史認識の問題を持ち出すと日本では反発する人が多いらしいですが、そんなことはないでしょう。平和学の講義のときにいつも言っていますが、自動車事故にあったとき、事実関係を究明して、次に謝罪をし、補償をし、事故の再発がないことを約束する、こういう過程を踏むのが常識ですが、外国との関係になると、全然知らんふりをして、うそをつく。それでは仲直りできるはずはない。

私が一番腹が立つのは、うわべだけで謝るふりをして、何も悪いと思ってないのに、謝罪したからと開き直すことです。かえって挑発しているようなものです。日本の世論は今回の日韓葛藤で何回も謝ったのに、韓国は謝罪を要求し続けていると、韓国を非難しているらしいんです。加害者が、被害者をしっかりつけている図です。

戦争経験がない若者たちの世代が多数を占めるようになった、70年、80年代に、若者世代の戦後責任が問題になりました。若者たちは戦争に行って人を殺したわけじゃないのに何の責任があるの

かという疑問を、当然持つでしょう。しかし戦争で、多くの人が死んだのは事実です。南京虐殺や満州の平房で生体実験をやったのも事実です。その事実を否定するなら、相手が納得できるように話をつけたのかというと、そうじゃない。若者たちが、日本の国籍を持っているのなら、過去清算をしてこなかった政治や政府に対して主権者としての責任があるのです。だから、若者も過去の日本の歴史に対して現在の責任があると言えるでしょう。

### アメリカの朝鮮認識と核問題

アメリカと北朝鮮が核・ミサイル問題で交渉していますが、アメリカの朝鮮認識が少し変わってきたと言えるでしょう。1990年代の初めのころ、私がカリフォルニア大学のバークレーに2年半ほどいたとき、サンフランシスコの街角で会った人が、私に「ホワッツ・ユア・ナショナルティー？」と聞いたりしました。「アイム・コリアン」と言うと、どこで生まれたの、私は京都で生まれたと答えると、それじゃあ日本人じゃないかと言うわけですよ。アメリカじゃ、アメリカで生まれると、市民権をみんなくれるのに、日本は絶対にくれないから、不思議に思うんでしょう。

アメリカでは、コリアがどこにあるのかそもそも知りません。日本すらも正確に知らない人もたくさんいます。アメリカ人は英語を話して、自分の町のことだけ知っていれば、世界で暮らすのに不都合はないので、朝鮮や日本なんか、知らなくても全然問題ないんです。韓国のことなどは、ほとんど完全に無視ですから。しかし、北朝鮮、金正恩と言うと、知っています。それはアメリカと敵対しながら強力な核とミサイルをつくってきたからです。トランプが、金正恩委員長を友達だと言っています。ワシントンDCに行くと、北朝鮮は知っていますが、韓国はよく知らない人が随分

たくさんいます。

朝鮮戦争では、400万人、アメリカ人だけでも3万余人の被害者が出ました。アメリカがアジアで行った大きな戦争に朝鮮戦争とベトナム戦争がありますが、朝鮮戦争は「忘れられた戦争」だとか、「勝利なき戦争」だとか言われています。アメリカにとっては思い出したくもない。アメリカが建国以来、初めて勝てなかった戦争なんです。これは、アメリカにとって屈辱の記憶です。シンガポールでの朝米会談でも議題になりましたが、米軍の遺骨もまだ全部収集できていない。だから、北朝鮮に対しては、それなりの認識をしているわけです。

アメリカにとって朝鮮は、最初、日本の附属物みたいなもので、朝鮮自身についての認知はなかった。朝鮮半島、38度線で分割占領したが、韓国の占領部隊の司令官はジョン・リード・ホッジといいますが、マッカーサーの指揮下の太平洋軍第10軍にいた将軍で、沖縄上陸戦の野戦軍司令官でした。もともと、機甲部隊の指揮官です。それが、朝鮮半島で日本軍の武装解除をして、戦後日本と同じように占領統治を行うために派遣されました。マッカーサーは行政を行うのに、野戦軍司令官を送り込んでいます。到着するや否や、マッカーサー司令部布告第1号の第3条で、「住民は本官と本官の権限の下で、発布された命令に、即座に服従しなければならない。占領軍に対する反抗行為または公共安寧を妨害する行為をする者については、容赦なく厳罰に処するものである」と、敗戦国に対する占領軍であるかのような強硬な布告をしています。

アメリカの朝鮮認識は、朝鮮を独立した単位というより、解放後も日本の一部であるかのような認識です。当時の軍事地図なんかを見ると、みんな日本語で朝鮮語の表記は一つもない。ソウルは京城で、Keijoと書いています。朝鮮戦争でも、その地図を使っていた。アメリカにとって朝鮮は、

あってなきがごとき国だったのです。

冷戦が東アジアで明確な形をなしていくと、朝鮮半島は共産圏に対する防波堤、最前線基地として沖縄とともに、東アジアにおけるアメリカの軍事戦略の最も重要な基地である日本の附属地のようなものでした。

朝鮮半島で、アメリカは核の傘と米軍の駐屯で韓国の安全保障を行っており、北朝鮮は、北方三角同盟といいますが、ソ連と中国との軍事同盟を結んで、アメリカの軍事力に対する均衡を保ち、38度線は維持されてきました。1989年、冷戦の崩壊とともに、北朝鮮が結んできた中国、ソ連との軍事同盟は崩壊し、孤立状態になってしまった。経済的にも困難に直面した。従来、経済的な連関を深く持っていたソ連が崩壊してしまった。ソ連の人々だって、ゴルバチョフがペレストロイカとか言っている間に、モスクワの市民の平均寿命が5歳も縮んでしまった。戦時でもない、平時に社会的セーフティーネットが崩壊し、年寄りと赤ちゃん、子供たちがばたばた死んでしまった。国が崩壊するとは一体どういう悲劇なのか、想像が付きませんが、ソ連アカデミーの有名な学者たちに給料も出ないし、仕事がないから、闇商売をやって、武家の商法でみんな失敗して、自殺したりした。ソ連の崩壊で北朝鮮の経済も致命的な打撃を受けました。

私が韓国の学者たちにアメリカが突如崩壊して韓国との経済関係が失われた場合、韓国は生き残れるだろうかと聞くと、みんな韓国は崩壊すると言いました。経済連関性が崩壊するということは、それぐらい大変な問題です。

だから北朝鮮は生き残る方法として、核ミサイルを選択しました。「貧者の武器」といいますが、絶体絶命の窮地に追い込まれた北朝鮮が武装できる、最も安価で、効果的な方法だと言われています。朝鮮半島で北朝鮮が初めて試みたわけではなく、1970年代、韓国の朴正熙は、アメリカがベト



ナム戦争に負けて朝鮮半島から撤収する話が出たときに、韓国の核・ミサイル開発を推進した。そのためにアメリカで勉強していた優秀な科学者たちを破格の待遇で韓国に呼び戻して研究をさせようとした。ところがシカゴ大学にいた核物理学者は韓国に帰るために、空港に向かう高速道路で、自動車事故で死んでしまい、多くの疑惑を生みました。『ムクゲノ花が咲キマシタ』というタイトルで映画になったり、小説になったりして大きな関心を集めました。

朴正熙は自分の部下である軍情報機関、保安司令部、金載圭司令官によって暗殺されました。それも、韓国が独自核武装をしようとした結果、アメリカが暗殺を指示したとも伝えられています。それだけではなくて、韓国の軍港、鎮海をソ連に売り渡す話もありました。今から考えると、中国とソ連との関係が断絶し、孤立した北朝鮮が独自核開発をしようとしたことも、別に不思議ではないと言えるでしょう。

北朝鮮の核・ミサイル開発の結果、アメリカは北朝鮮の存在をようやく認識するようになりました。2018年の一連のアメリカとの首脳会談で、金正恩委員長は核を放棄すると表明した。故金日成主席の遺言が「核の完全な放棄」だとも言っています。北朝鮮が非核化をやろうとしているのは、本当だと思っています。ただ非核化をする上で、信頼関係を築く上で、段階的な、相互的な方法が必要で、それがアメリカと朝鮮との交渉の構造だと思っています。

もっと大きな構造から言うなら、朝鮮戦争はアヘン戦争以来の西洋帝国主義の東アジア侵略の結果です。すなわち中国で毛沢東が蒋介石と戦って中華人民共和国を作ったのは、共産主義イデオロギーというよりも、帝国主義侵略に対抗して、中国人が主権者として国を作りたいという民族主義によるもので、民族解放闘争が19世紀以来の東アジアでの最も基本的な歴史の流れだと思っています。

その流れの中に国共内戦があり、その延長として朝鮮戦争があったと思います。

朝鮮半島をイデオロギー対立である冷戦の最後の残りかすとか言っていますが、沖縄で知事になった玉城デニーさんの前任者、翁長知事が「イデオロギーよりアイデンティティー」と言いました。沖縄人にとって左翼とか右翼とかではなくて、沖縄の人間として同じ痛みと差別の経験を持っているかどうか、より重要だということです。東アジアの近現代史をイデオロギーで裁断しようとする人々がいますが、毛沢東主席にしても、金日成主席にしても、ホー・チ・ミン大統領にしても、一般に共産主義者だと言っていますが、やはり自分たちの国を植民地状態から解放させたい、外国の支配を受けたくないという思いで闘争に身を投じた民族主義者であったと言えるでしょう。翁長さんのアイデンティティー・ポリティクスも同じです。「イデオロギーよりアイデンティティー」がその本質であると思います。

金正恩委員長は、アメリカとの平和協定を結び、朝鮮半島南北の和解を進め、平和の時代をつくり、統一に向かって進もうとしている。まさしく朝鮮民族が背負ってきた、1世紀以上にわたる苦難の道から解放されたいという思いでしょう。金正恩さんは文在寅さんの信頼に応えて、断固として非核化を行うでしょう。ただ、裏切ったり、踏みにじろうとすれば、決して認めるわけにいかないという覚悟でしょう。

### トランプ大統領について

トランプと、なぜ交渉するのかという疑問がよく提起されます。トランプは人種主義者、女性差別主義者で、うそつき、詐欺師です。どうしてこんな人間を相手にするのか、トランプの言ったことは信じられるのかという人々もいます。大統領になったトランプの一番の関心事は、対抗者で

あったヒラリー・クリントンや前任者のオバマに対する対抗心です。アメリカのエスタブリッシュメントたちとは違うんだという反感にアメリカの貧しい労働者などが、トランプに好感を寄せるところがあるのです。

それともう一つ彼の大きな関心は金です。新重商主義といいますが、金銭的損得を基準に物事を判断する。守銭奴かも知りませんが、わかりやすい人物とも言えるでしょう。これまでのアメリカの大統領は、ほかの国からむしり取ろうとしながら美辞麗句で、それを韜晦する。それに比べ、トランプは非常にわかりやすい。朝鮮半島における軍事訓練だって、金がかかるからと、中止したり、縮小したりしています。一度訓練すれば1億ドルとか2億ドル金がかかるのに、そんな金は使いたくないと、これは非常にわかりやすい発想です。アメリカが偽善的なイデオロギーを振り回しながら、世界の警察とか言っていたパックス・アメリカナの時代を終焉させたい。難しいことを言わずに、もっと即物性で直截簡明に話す。金を使ってまで、訓練などやる必要はないという考え方です。トランプを信じられるとは思っていません。ただし、ヒラリー・クリントンやオバマのように朝鮮半島を見下して、相手にしなかった人間よりも、ここで名前を挙げ、金もうけの機会があるかもしれないと、北朝鮮と交渉しようとするトランプは、朝鮮半島に一つの機会を与えてくれたとも言えます。大いに交渉すればいい。けんかするんじゃない、戦争するんじゃないから、交渉して話をして、トランプがくれた機会を自分たちのものにすればいい。

韓国でも、この機会は北朝鮮にだけ与えられた機会じゃない、韓国に与えられた機会でもあると、言っています。韓国には主権がなく、軍事主権をアメリカが掌握しています。この機会に韓国も主権を回復すべきです。

朝鮮半島をめぐる国際問題は非核化問題にばか

り集中して、アメリカ・ペースで進んできた。それとともに大切なことは、南北朝鮮の関係をどのように発展させていくのかということです。南北関係が発展すれば、アメリカが朝鮮半島問題につけ込む隙はなくなるはずで、アメリカが制裁すると言っても、もっと断固として、自分たちの問題だから干渉するなと主張すべきです。

文在寅さんの対米外交は「ほめ殺し外交」です。トランプをほめて、ノーベル平和賞もトランプが貰うべきだと、気に入るようにやってきた。韓国に主権が存在しない状況で、アメリカを何とかなだめて、ご機嫌をとってやるしかないという考え方です。

韓国は全体として、崇米、恐米の雰囲気強いですが、外交部なんかでは、完全に対米追従です。しかし、「ほめ殺し外交」ではなく、朝鮮民族を中心にして、韓国対アメリカ、北朝鮮対アメリカではなく、南北朝鮮対アメリカの構図を作ってゆく必要があるので、南北の交流・協力・協働を格段に進めて、対米交渉力を強めていくことだけが朝鮮民族が生き延びる道だと思います。

金剛山観光に対する制裁は国連の制裁ではなく、韓国政府の独自制裁なんですが、境界線を越えるのに「国連軍」の許可が要るとかで、アメリカが干渉するのです。国連の制裁だって、核・ミサイル実験するからという理由で、制裁をかけてきたんですが、もう実験を中止して1年以上たっているのに、制裁が相変わらず続いているのはおかしい話です。韓国も制裁解除をもっと積極的に言うべきです。文在寅大統領はおとなしいから、アメリカの顔色を見過ぎていていると思います。やはり強く出るときには出るべきだと思います。

トランプを信じることはできないが、ただ、トランプが作った機会を100%自分たちのものにすればいいのです。日本人も、朝鮮半島の平和のみならず、東アジアの平和でもあると考えるべきだと思います。「朝鮮半島平和の時代」が実現して

いくなら、分断の壁、対立の壁が疎通・交流・交通の交差点・集いの場になっていき、そこからユーラシア、東アジアの疎通・交通が1段階、2段階も発展していくと思います。これまでは朝鮮半島に戦争が起こるかもしれないと考えられていました。しかし、これからは、朝鮮半島に行けば、情報もある、いろんな人との出会いもある、新しい文化との交流もあるといった具合に、とても魅力ある場所に変貌していく。これが「朝鮮半島平和の時代」です。

又石大学校東アジア平和研究所は、これから到来する「平和の時代」が東アジアにとって、我々にとって一体何かを研究したいと思います。そこで我々は行動する研究所としてやっていきたいと思っています。皆さんもご支援ください。ありがとうございました。

## 質問への回答

——講演をありがとうございます。続けて質疑応答に移りたいと思います。ディスカッサントの米津篤八さんからは、二つの質問を頂きました。

第一は、文在寅政権の2年間をどうみるか。なかでも社会安全法撤廃問題に関して触れていただきました。民主化後も、朴正熙時代に作られた社会安全法による保安監察措置は廃止されておらず、例えば光州事件の際に全羅南道庁にたてこもって逮捕され、14年の獄中生活を送り（この際に徐勝先生とも矯正所で出会っています）、釈放後も保安監察措置の対象となった姜勇州さんは現在も保安監察の対象になっています。文政権は国家保安法や保安監察措置を撤廃できるのか、というご質問と理解いたしました。

第二は、日本人がなすべきことは一体何か、何かヒントがあれば教えていただきたいというものです。

また、会場からはトランプ大統領が米国の軍産

複合体に取り込まれはじめているのではないか、そうした中で文在寅大統領は自主的な政策を貫いていけるのだろうか、朝鮮と米国の平和条約はいかなる内容になるか、南北朝鮮が統一された場合の世界経済への影響、特に中国の一带一路構想との関係はどうなるかといった質問をいただきました。

それでは徐勝先生、回答をお願いいたします。

質問がたくさん出ました。時間が足りるかどうかわかりませんが。まず一つは文在寅大統領の話、その次はトランプとアメリカの話です。それから日韓関係の話です。大きく分けて、この三つかと思います。

## 文在寅政権に対する評価

まず韓国の文在寅政権についてですが、2年間でどう評価するのか非常に大きな話です。文在寅政権、最近支持率が非常に下がっています。40%中間ぐらいまで下がってくる。政権初期のころは70%から80%まで上昇していたのが、半分近く落ちてきています。どんな政権でもみんなそうです。恋愛だって、最初にほれて2年ほどすると熱が下がるのと似たようなところがあるのかもわかりません。

文在寅政権をどう評価するのか、難しい問題ですが、やはり非常に画期的な政権だと言えます。南北関係にかつてなかった大きな突破口をあげようとしたことは評価できる。第2点がかつての国家暴力、国家犯罪に対して果敢な取り組み、謝罪などを行ってきた。文在寅政権2年の評価については韓国の新聞にも出ていますし、いろんな論者が話していますが、ある人は、文在寅政権は、ショービジネスは上手だと言っています。例えば光州に行って被害者と抱き合って涙を流すとか、感動を与えることはできる。しかし説明が

足りないとも言っています。

文在寅政権の支持率が下がった大きな理由は、経済だと言われています。若者たちの就職問題があります。しかし、これは文在寅大統領だけの責任に帰せられない。私の後輩には経済学者もいますし、政府の経済関係の要職にいる人間もいます。聞いてみても、経済学者も経済のことはよくわからないんです。誰が担当しても、あまりうまくいかない。

いつも引き合いに出されるのが、安倍政権は経済を非常にうまくやっているという話です。それも賞味期限が切れたという話もありますが、いずれにしても安倍さんは単純に信用供給を拡大させて、金をたくさん刷ってばらまいて、株価を上げて、何かみんなが金持ちになったような気分になっているということらしいです。実際、就職が良くなっているのは事実です。私は安倍さんが就任する前に日本にいましたが、そのころ結構、信用膨張を抑制しないと、膨大な国債の赤字とか、いろんな借金が残る、若い世代が後に借金を背負い込むことになるから、財政の健全化を図らなければならないという話が圧倒的でしたが、そのために経済成長が鈍化することがあったみたいです。

韓国でもそれに似た問題があります。文在寅大統領も経済の専門家ではなく、法律の専門家として経済正義の実現、貧富格差の縮小だとか、最低賃金の引き上げだとか、社会福祉の充実だとか、やっているけど財閥の強い抵抗に遭う。最低賃金制度をつくったために経済が悪くなったと非難されている。それならそれをやめろという話なのかと、なります。私は納得できない。文在寅大統領が世の中をよくしようとしたことが全て悪い、財閥中心の昔のような経済にしろと、とてつもない圧力を受けています。問題は、現実には経済が不調であるから、文在寅のやった福祉拡大だとか、最低賃金の引き上げだとか、みんな間違っている、という変な話になってくるんです。

韓国の経済問題、いろんな問題がありますが、そもそも市場経済の競争性、特に新自由主義で、韓国経済や社会自身を組み立ててきたことに大きな問題があると思います。競争が効率を生み出す、公的補助はできるだけしないほうがいいという考え方です。すなわち、良い大学に入って、資格を身につけて、実力が上がれば良い企業に就職して、高い給料をもらって、良い生活ができるという考え方に韓国の若者たちや市場全体がとらわれていると思います。こういう考え方は、韓国の今の与党、革新派と言われている人々も、ほぼ同じです。

それで僕の知っている、昔、南朝鮮民族解放戦線の人民武力部にいた、韓国YMCA全国連合の事務総長をやっていた、国会議員のLですら、同じようなことを言っていたので驚いたことがありました。京都での講演で、一人一人の学生たちが一生懸命勉強して、ほかの人に勝ち抜けば社会はよくなると言っていたと思います。その人の運命は変わるかもしれませんが、全体で3%なり5%しか合格しないことは変わりはありません。最終的にその階段を上り切れる人は少ないから、永遠に、社会における停滞とフラストレーションがたまっていくばかりです。

朝日新聞のソウル支局の記者が、韓国は教育に大きな問題があると言っていました。韓国の学生は、一流大学を卒業して、一流企業に入って、ほかの人より高い給料をもらって、自家用車を買って大きなアパートに住む、これが夢で、実際、何人かが成功する。でも、ソウル大学を出ないとだめ、ソウル大学を出ても良い成績をとらないとだめ。ほんの数%だけ。良い生活ができるのは何%に過ぎないが、それがロールモデルになるんです。学生たちには多様な人生がありえます。大工でも、すし屋の職人でも、自分自身の性に合った職業を選べばいいという考え方が韓国ではできないんです。

今、韓国の一流企業の初任給が日本の2倍ぐら

いだと言います。日本では初任給でそんな差がつかないが、韓国では非常に差がつく。いきなり月収40万～50万円もらって、大きな40坪ぐらいのアパートを買って住んでる。そうすると、ほかの学生みんな一流大学、一流企業を目指す。韓国の場合は、高卒の80%が大学進学します。日本は50%ぐらいです。韓国では、専門学校を出たところで、一流企業に就職できないからといって、専門学校がなくなったが、日本では、まだ高卒の20～30%ぐらいが専門学校に行き、専門職になる。

これは別に日本だけの現象ではなくて、ほかのところでもそうです。私の娘はカナダで勉強していますが、アメリカとかカナダ、ヨーロッパでも、入学してから学生たちを厳しく振り落とすから。勉強する力と、その気がなければ、やめて自分の適性に合った仕事を探すのです。50%も卒業できないから、自然とほかの職業を選ぶんですが、日本や韓国では大学に入りさえすれば、厳しくないから学生がだめになるんです。

韓国の場合は、警官でも、消防士でも、相撲取りでも、タレントでも、みんな大卒じゃないとだめな学歴社会なんです。韓国では、歌手だとか俳優でも、ちょっと有名になるとみんな学位を取りたがります。イチローみたいな人は、あまりいない。「俺は野球やってるんだから、大学なんか関係ないよ、野球で頑張りゃいいじゃないの」と。格好いいじゃないですか。だが、韓国では、みんな博士号を取らないとだめで、米津さんみたいに博士号を取ろうとします。この人も一流の通訳・翻訳者に徹すれば歴史に名前は残るのに。

だが韓国で深刻なのは、就職問題です。韓国は労働力が足りないから、日本と同じように外国人労働者を入れているでしょう。韓国の若者は単純労働なんかしたくない、やらないと、なってきて。外国人も生活しなければならぬから、最低賃金を上げると、中小企業やコンビニが成り立たないという話が出てくるんですよ。

僕は韓国で、大学を3分の1に減らせと言っています。画期的に構造を変えない限りにおいてはうまくいかない。文在寅大統領だけではなく、誰が大統領になってもうまくいくはずがない構造です。

今、文政権を批判している人々は、そんなことやらないで、全て財閥のやりたい放題やらせればうまくいくと言うんです。めっちゃめっちゃもうけているサムスンにあやかって、みんな金持ちになれるという話なんです。財閥は金もうけ、利潤の最大化が目的であって、社会的還元だとか奉仕とか言っていますが、政府からならまれると、不利益があるから、しょうがなしに、もうけの一部をごまかして、ごまかし切れない部分を一部還元する形にしているのです。

話が横道にそれましたが、文在寅さんに対する評価についてです。文在寅大統領は改革的、進歩的な政策を全部実現しているのかというと、していないんです。していない訳は、まず第1点は、大統領は体力的に、精神的に、知的能力的に、道徳的に大変な仕事です。誰でもできることじゃない。私は文在寅さんがこの前の大統領選挙のキャンペーンをやっているときに、会ったのですが、毎日遊説で、1日に2～3時間も寝られないから、顔面蒼白で宙に浮いてる人みたいな感じだった。自分の意思で何もできない。周りの人が決めたことをやるしかしょうがない。大統領は自分がやりたいからといって、全部できない。

例えばさっき出た保安監察、国家保安法の問題。大統領が廃止するといっても、議会に通さないとだめだし、政党も世論もあって、全てがかみ合わないだめなんで、なかなか難しい。特に今は保守野党が議会で大きな比率を占めています。国民世論と議会の議席の比率が、必ずしも比例してないんです。以前、保守政党が支持を受けていたときの選挙の議席を今も維持して、あらゆる妨害をしています。とんでもないことがいっぱい出てく

るから、現実では難しいところがある。

もう一つの大きな問題は、政治は政治家たちだけで動くわけにいかない。利害関係を持った団体、ロビーがある。ロビーは悪い意味でも、いい意味でも、政策実現を推進する圧力団体です。先ほどの国家保安法とか、保安監察部の話を例にとれば、韓国の民主化過程が熾烈だった時期、監獄にたくさんの方が投獄されて、その家族も合わせると非常に多くの人々がそれに関連していた時代、その痛みもすぐにわかる時代では、関心も高い。だが、監獄から出てもう30年近くなると、ほとんどみんな忘れて、知らない。知っていても、自分との関係はないと、無関心です。国家保安法問題なんかは、それに切実な利害関係を持つ圧力団体や運動があまり存在しない。ほとんどの人間はもう監獄を出てから民主化のおかげで、自分は民主化の闘士だと言って、喜んで連中もたくさんいます。監獄にいただけで、出てきて自分は民主化運動をやったんだという連中もいます。保守、右翼だけが悪いのではなくて、運動している連中も問題だと言えると思います。

それから三つ目に優先順位です。いま南北関係や安全保障問題など大きな問題があります。現実政治としては経済の問題、若者たちの関心を一体どう評価し、この人々の考え方をどのように組み入れていくのか、難しい話です。昔は学生運動が強力で、若者たちは、重要なオピニオンリーダーでした。先進的で最も組織された団体であった。以前の開発途上国家では、人々が社会で機能できる人間として育つルートは、一つは学校であり、一つは軍隊です。軍隊と学校は、その社会のパワーエリートをつくっていく供給源だった。学校はかつて公論の場を持っていた。すなわち学校で友達と話して、討論会やデモもやっていたが、そうではなくなってきた。なぜかと言うと、新自由主義のグローバル支配です。学生がデモしても自分が報われるわけじゃないと思いはじめました。そんな

ことするぐらいなら英語の塾に行って、TOEFL試験の成績でも上げたほうがましだとか、図書館に行って勉強したほうがいいと考えるんです。隣にるのは友達じゃない、競争相手は蹴落とさないと、という考え方です。今は同じ学校の建物で勉強していても友達じゃない。昔は授業が終われば、飲みに行こうかと、朝まで飲んだりしていました。酒ばかり飲んでいいのかと言うかもしれませんが、実は飲み会は、学校で先生の話聞くよりずっと役に立つ。先輩・同僚と徹底討論するんです。飲んで延々と観念的議論を朝までやるんです。昔は、勉強は教授から習うのではなくて先輩から習うんだとか、言ったものです。

ソウル大学に行って、社会学科の助手に「久しぶりに飯おごるよ。院生たちを呼んでくれ」と言ったら「先生、何を言ってるんですか。このごろ集まるはずないでしょう。みんなプロジェクトやったり、アルバイトやったり、助手やったりして忙しいから、僕ら同士も顔合わせて一緒に酒飲んだり、ほとんどないんです」と言われました。大学は、もともと共同体です。集まって、喧々諤々、討論するのが大学です。ユニバーシティの起源は組合でしょう、それがなくなってしまった。社会的なオピニオンリーダーとして、オピニオンを形成する機会がなくなった。それを何とも思わず、ますます強化する。それぞれの大学が構造改革とかいって、金もうけの役に立たないと言って、廃止する。明治学院大学は、まだ学部や学科が存在していますが、私の学校なんか、歴史学科も哲学科も、倫理学科も、日本文学科もみんななくして、残っているのは看護学科とか薬学科とか、テコンドー学科、軍事学科など、何か資格を持ってすぐに就職できる「実用の学問」以外はみんな切り捨てた。それでは人間は機械の部品のようにしてしまうのです。

韓国だって、文在寅さんの責任ばかりではないです。新自由主義に反することをやれば、攻撃を

受ける。文在寅さんの2年間の業績評価は非常に難しいです。彼が自分の意思でできることがどこまであって、どこまでやってきたのか。もっと大胆にできることがあったと思いますが、彼はジェントルマンだから、強引なことはめったにやらない。

世界に蔓延する競争・効率神話を誰がつくったのか。市場経済は、昔のような素朴な市場経済ではないですよ。新自由主義は「夜警国家」ではない。外枠は強烈な軍隊の暴力で守り、イスラムのように反市場経済的な勢力を徹底的に弾圧することで、自由な市場を保障する。この秩序に介入する人間や勢力に対しては、無慈悲な暴力でたたき潰して、財閥とか、多国籍企業とか、投機家とかいう連中のやりたい放題させています。強力な暴力で鉄壁のリングをつくって、その中で自由競争という美名で無限の利潤追求を保障するのが、新自由主義だと思います。そもそも自由主義は、市場外部からの干渉が存在しないものですが、新自由主義は全く性格が違うのです。極めて反自由主義的な性格を持った新自由主義が世界の経済秩序をねじ曲げているのです。韓国は、その最たる被害者です。韓国の財閥を中心とする成功神話があり、財閥は社会的勢力として非常に強大な勢力を持っています。分断状態で、資本主義、市場経済への信仰が反北朝鮮、反共意識と結びついて、誰もそれについて批判することができない聖域をつくってきています。心情として、文在寅氏を評価します。しかし実績が上がっていない。それは本人が頑張ってもできない領域もあるし、周辺でも文在寅大統領のことを全部理解しているかというところではない。選挙のときに協力してくれた論功行賞をやらざるを得ない。

## 日韓関係について

文喜相議長は、従軍慰安婦に対する天皇の謝罪

に言及して徹底的に叩かれました。彼は別に悪意で言ったわけではなく、韓国人は、天皇は日本で一番偉いと言われてて、日本国民が愛してやまないから、天皇が少しジェスチャーを示せば韓国の従軍慰安婦も納得してあの世に行けるんじゃないかと思ったのでしょうか。日本人も、天皇まであや言ってるのだから、我々もちょっと態度を改めようと思うかもわからない。僕は、彼は結構、善意で言ったのではないかなと思いますが、その善意が間違ってる。

日本では民主主義の問題にしても、平和の問題にしても、天皇が一言言えば少しそれが牽制される。安倍総理などより天皇のほうがずっとましで。戦後日本の政治の問題の一つは、天皇だよりで、天皇制民主主義、天皇制平和主義をつくってきたことです。天皇に頼ることなく、主権者たる君たちが政治を決定していけばいい。だが、日本人の心情に天皇のお言葉があれば、安倍もそんなむちゃなことできないでしょうと、憲法9条平和主義を唱えている人たちも、天皇に期待する人がいるんですよ。日本政治は、民主主義は民主主義、平和主義は平和主義でしっかりやらないといけません。天皇制民主主義、天皇制平和主義ではだめだと思います。ところが韓国の知日派と言われる連中にも刷り込まれた天皇主義があって、天皇がヴィリー・ブランドみたいに韓国に来て、一言謝罪すれば、日韓のわだかまりが解消するのではないかと期待しているんですよ。そんなことでわだかまりが解けるなら、初めからわだかまりができこないでしょう。

韓国で文在寅政権が生まれた背景にあるキャンドル・デモの精神は主権者意識でしょう。憲法第1条の第2項を歌にして歌っていました。国民主権です。当たり前だと思うでしょう。だが、朝鮮では主権者たる民衆が主権を持ったことは歴史上ほとんどなかった。植民地時代には朝鮮民族に決定権を持たせなかった。独裁時代では独裁者が決

定する。民主化してからも、人々の主権者意識がちゃんとしなかった。もう一つは、パワーエリートが、金持ち、地縁と、血縁、あるいは学閥を背景とした影響力を行使する勢力がいて、主権者の考えどおりに決定することは簡単なことじゃない。国民主権を人々が意識し出して文在寅さんを大統領にして、韓国が国として自分たちの運命・進路は国民が決めなければならないという、国家主権の問題にまで至ったのがキャンドル・デモの結果だったと思います。

一生懸命、韓国が平和の時代を作ろうと、今もう戦争はないんだと言ったところで、アメリカの許可がなければ、何もできないよと、トランプは露骨に言ったでしょう。トランプに対して怒らなければだめなのに、みんなびびっています。韓国がハッキリと主権国家になるときに初めて、平和の時代が実現されて、統一への準備ができます。アメリカの非核化スキームにはまってはだめなんです。非核化スキームはアメリカ中心の世界秩序の押し付けであって、「属国」日本はアメリカに追従して、北朝鮮は一方的に核を放棄せよとか、言っていますが、韓国でそんなことしたって何も役に立たない。アメリカのお手伝いをしたところで、韓国にとって何も得にならない。

金正恩委員長も非核化すると言っていますが、アメリカのスキームではない。自分たちのスキームは民族同士の和解と平和、交流、協力なんです。非核化フレームにはまってアメリカのお手伝いするために、北朝鮮との金剛山観光だとか、開城工業団地の再開をおろそかにして、北朝鮮が非核化しない限りはだめだとか言っては、展望がないのです。韓国が北朝鮮との協力を進めていく中で、朝鮮半島の非核化の未来を語るのはいいですが、朝鮮半島で、自分たちの平和と幸福を築く相手はアメリカではなく、北朝鮮なんです。

歴史認識の問題、過去清算の問題ですが、自動車事故の話をしたように、常識ですよ。日本がア

ジアに住んで、アジアの人々と一緒に未来を開いていこうとするなら、歴史の清算をやるしかないんです。中国、韓国、台湾とも共同して君たちの未来を開いていかなければならない。君たちは、日本企業だけに就職するわけではないので、共通の財産として考えれば、人間として当然果たすべきことをやる。客観的な事実を事実として正確に認識し、そこに責任があれば応分の責任をとる。普通の人間として極めて当然のことをやるべきだと思います。

日本は変な国です。「食わず嫌い」という言葉がありますが、日本は何か問題があったらそっぽを向いて、体験しようとしません。アメリカはものすごいえげつない国で、弱小国をあんなにバッシングして、北朝鮮をいじめ抜いたりしていますが、一方において民間では、あんな状況で北朝鮮と交流を続けるグループもいます。そして制裁だって、プッシュみたいな人間でも人道支援は別途の問題だから、やると言っています。それは当然でしょう、人道支援は政治的なものじゃないと言っている。日本の安倍は、人道支援もへったくれもない。

日本にある朝鮮学校にだけ、朝鮮色がついてるから補助金を出さないと、そんなばかな話をして日本国民が納得してる。外交政策と朝鮮差別とは、ちゃんと区別してやらないと。朝鮮人差別が非核化のための北朝鮮に対する制裁なら、何の効果もない。朝鮮人は、日本が差別し、憎悪し、いじめめるためにやっているとしたかと思わないじゃないですか。

すぐに結果が出なくても、やはり交流をすることが大切です。この前、京都弁護士会で話をした時、私は言いました。弁護士さん、そんなこと言う前に、皆さんで旅行団を組んで、北朝鮮を一度訪問してきなさいよ。実際にそこの人々に会って、文句があれば文句を言ってくればいいと。

私は大学の教員やりながら、毎年学生たちを韓



国や台湾、沖縄に連れていき、交流していました。特に韓国の学生と会うと、彼らは日本の昔の植民地時代の話をして激論になったりもします。でも、3日も一緒にキャンプをしていると、仲よくなるんです。要するに、最初に会ったときは全く違った認識と態度で、別れるときには「また会おうよ」「別れたくない」といった話になるんです。

私も、北朝鮮は監獄を出てから2回しか行っていない。私だって平壤に行けば、これはおかしなところだなと思いますが、人と会って話しているうちに、酒飲んでいるうちに、ああ、この人も同じことを考えてるんだなとわかります。立命館の国際関係学部の中戸祐夫先生は、毎年北朝鮮に大学院の院生を連れて行っています。彼は、関寛治先生の弟子です。北朝鮮バッシングが強かった時にも、中戸先生は、立命館で教授、院生含め、10数名の訪問団をつくって行ったりしている。立派だと思えます。

いま韓国では大変ですよ。2018年に南北の接触が始まるや否や、各大学、地方自治体、企業が、全部、北朝鮮訪問・交流申請を出して、数千件もあふれているんです。

アメリカは悪い国だが、とても懐が深いところがあって、私のようなアメリカ嫌い、反米主義者もアメリカに来させて、ちゃんと見物もさせて、パークレーで客員研究員として過ごさせる。日本と比べると、格段に懐が深い。私は、日本が北朝鮮を批判・嫌悪する前に、もっと行って実際見てこないとだめだと思います。文句あるなら、向こうに行って文句を言ってくる。布団の下に隠れて文句言ってるようでは、何も解決しません。

### トランプ政権の現状と今後への展望

最後にトランプが、軍産複合体に取り込まれているのではないかという質問です。トランプは、さんざんあくどい金儲けをした悪い人間だが、軍

産複合体に取り込まれるような人間じゃないでしょう。彼は、軍産複合体を利用しますよ。自分の周りにネオコン、軍産複合体の人間は当然いますが、軍産複合体の下に自分がいるのではない、その上にいる意識を明確に持っていますから、連中の言うとおりにやらない。もちろん、その利益はしっかり自分のものにするでしょう。

アメリカと北朝鮮が朝鮮戦争終結の平和条約を結んでそれを守るかどうか、それはわからない。条約は法律ではないので、破ったところで刑罰を受けない。歴史的にも、条約を破った事例は幾らでもあります。平和条約に対する保障条約みたいなもの、東北アジア非核平和共同体みたいなものを作って、確実なものにしていく必要があると思えます。

しかし、一番重要なのは、それを人々が守らせることだと思います。守らせる力はどこにあるのか。究極的には、主権者たる朝鮮半島の人々にあります。沖縄にしても、日本の人々が一致して、沖縄に米軍基地は要らないからもうアメリカは帰ってくださいと言ったら、アメリカだって帰らざるを得ないでしょう。フィリピンだって、米軍基地を撤収させたんだから。要するに、沖縄の人々が一丸となって、もう帰ってくださいと言えば、帰らないわけにいかないでしょう。朝鮮半島で平和条約が結ばれ、それをアメリカが守らなければ、これまで親米だった韓国人までアメリカが嫌いになります。国民たちが一致して言えば、それを蹂躪できる政府、政治、国家は、どこにもないと思うんです。アメリカだってファシストの国だが、一応名分としては反ファシズムの立場に立たないとしょうがないでしょう。雑な説明になりましたが、これで終わります。